



名札でPCを簡単・確実にロック ウェアラブル・セキュリティツール CertifGate

シチズン時計株式会社

セキュリティの細かい需要に応える

IT化がさまざまな業種で進むにしたいが、情報セキュリティのニーズが急速に高まっている。ニュースをたびたび賑わせる個人情報流出事故や不正利用は、企業のブランドイメージを揺るがすし、企業の存続を脅かすほどの影響を及ぼす。

また二〇〇五年四月からの個人情報保護法の施行に伴い、企業は個人情報漏洩に対する具体的な防止策の実施が義務付けられる。企業規模の大小を問わず、情報セキュリティ策は、もはや過小評価できない経営課題となっている。

情報流出は、PCの不正使用など、社内での情報漏洩が発端となることが多いのも事実。企業としては万全の対策をとりたいが、実際の業務で作業性や効率性を妨げるほどの方法とはしたくない。セキュリティ機能が高くて使用感が悪く抵抗感があるなら、ほどなくして有効に使われなくなってしまう可能性もあるからだ。

その点で、シチズン時計が開発したウェアラブル・セキュリティツール「CertifGate（サティフゲート）」は、日常の業務でほとんど意識しなくても確実にセキュリティをかけることができる点で秀でている。

同製品は、非接触型通信無線電波発信機能を内蔵した名札（移動発信機）と、USBでパソコンに接続するベースユニット（受信アンテナ）で構成される。両者は無線接続されており、名札を付けた従業員が登録したPCから離れると自動的にPCをロックし、スクリーン・セーバーを表示。不正

使用を防止するほか、画面の盗み見を防ぐこともできる。従業員が受信アンテナの受信圏内に戻ると、ロックを解除。パスワードの入力などの認証手続きをしなくてもすぐに作業を再開できる。

「PCのセキュリティ方式にはさまざまな方式がありますが、どれにも一長一短があるといえます。ほんの数分間だけ席を離れることが多い職場では、生体認証やUSBキー方式では面倒になってしまおうでしょう。そこで、無線方式に注目したのです」と語るのは、シチズン時計株式会社の時計開発本部NW事業開発室マーケティング担当課長、松尾次郎氏。

シチズン時計は二〇〇一年に開催された「CITIZEN FORUM 21」で無線通信機能内蔵腕時計を発表するなど、もともと、今回のシステムのキーデバイスとなる無線のパッケージ技術には強みがあった。現在の形式で試作品をつくったのが今年の春。実験を重ね、結果をフィードバックしながら完成にこぎつけた。

特に苦労したのは、無線の設定と機器のバランスであったという。NW事業開発室長の木原啓之氏は、「無線の入力具合を、思惑通りにもっていきにはかなり苦労しました。受信アンテナが置かれる環境はさまざまです。PCが密集していたり、横にスチールの大きな棚や扉があると、思わぬ方向に電波が飛んでしまうこともあります。当初、受信アンテナはもっと小さなサイズのものでしたが、無線の入力具合が不安定だったため、まずは安定度を重視して大きめにしました」と語る。

とはいえ、受信アンテナ自体はさほど大きくない。スタイリッシュなシェイプともあいまって、

とくに気にならない程度である。また、名札のほうは発信機とボタン形電池が詰まっているものの、重さは約二〇グラムと、やはりコンパクト。すでにICカードなどを導入している企業でも、工夫次第で横に付けることのできる大きさである。なお、認証に使うIDは独自の技術で暗号化されるので、万が一通信が傍受されても解読は不可能という。また、無線の入る距離は任意で変えることができる。

便利な位置検出機能も

CertifGateのもう一つの大きな特徴が、名札を付けている個人の位置検出機能も備えている点である。これには、ローカルエリアネットワーク(LAN)を利用する。ネームタグの情報は付近の受信アンテナで受信され、個人の位置が特定されるのである。付属の位置検出ソフトを使えば、PC上で探したい相手の名前をクリックするだけで、場所を特定することができる。さらに、パソコン使用者が自分のPCから離れるときは、行き先をPC画面に表示しておくようにすることもできる。

木原氏は、この機能の具体的な場面と利点を次のように述べる。「席を離れていることが頻繁にある職場も多いでしょう。また、支店や協力会社に出かけていても、そこにアンテナがありLANでつながっていれば、特定できるわけです。部署の電話番号や内線番号を登録して表示することもできますから、不在者宛ての電話や来客時など、急いで連絡をとりたい場合には便利です」

PCがない会議室のような場所でも、一〇センチ角程度の専用LANポイントを設置しておけば、特定することができる。さらには、サーバのログ取得機能と連動させれば、個人の位置や共有のPCなどの位置をトレースすることができる。安全がいつそう求められる場合には、有効な手段となるであろう。

セキュリティからさらに展開

現在、CertifGateの開発プロジェクトチームは、システム運用上の安全管理に努め、最後の仕上げ段階に入っている。発売は二〇〇五年三月から法人向けの予定であるが、すでに、多方面の企業からの問合せが相次いでいるという。設置やアフターメンテナンスなどのサポート体

制も想定してはいるが、専用PCソフトのインストールも含めて、基本的には購買者自身でセットアップできるようなパッケージを目指すとのこと。動作だけでなく、設定もシンプルであることは大きな魅力である。

今後の展開として開発チームが強調するのは、タグを時計に組み込むタイプである。「職種や役職によっては、時計型のほうが便利であることは予測しています。たとえば、時計では防水タイプとすることができませんし、ディスプレイを使ってメッセージを通知するなど、機能を拡張することが容易にできます」(松尾氏)。ここからはまさにシチズン時計の本領発揮となる。簡単・確実なセキュリティだけではない。さらなる機能向上や効率化を見据えたバリエーションの展開も、今から楽しみな製品である。



席を離れると、写真のようにロック表示される



NW事業開発室
木原啓之室長



時計開発本部NW事業開発室
マーケティング担当
松尾次郎課長



(CertifGateは、Security Solution2004にも出展。
写真はそのときの展示内容)